

佐藤潤平氏：—東烏珠穆沁植物調査報告 (Junpei SATO : — Preliminary Report on the Flora of The Eastern Wuchumuchin-Region. Port Arthur 1934).

本書は關東廳内務局土木課の出版で滿洲水利水源調査資料植物之部第一號である。滿洲國に於ける綜合的水源水利調査の内容として編輯された本書は佐藤氏が昭和八年八月上旬より約四十日間に亘り東烏珠穆沁方面の植物を實査された調査報告である。植物分類地理學に關係ある方面を述べれば先づアート紙に印刷された多數の植物寫眞である。雀百まで踊はあすれんと云ふが我が同好の友佐藤潤平氏は水源の調査をしても植物分類は忘れず約百二十葉の植物寫眞は嬉しい。蒙古の植物の寫眞は内地に居て活字を通じて想像してゐる人々には遠くはなれた親類の寫眞でも見る様になつかしい。其の寫眞に附して植物の記載が邦文でしてあり、尙多くの植物に新和名が下してある。同氏の努力に感謝し今後もこの方面に活動されん事を願ふ。

(北村四郎)

生駒義博氏：—大山の地形、地質、動物、植物、鳥取縣 1934.

本書は伯耆の大山が國立公園になつたので鳥取縣の依頼に依り調査された報告である。生駒氏は多年鳥取縣下の博物を研究されてゐる篤學者で種々の方面から大山を研究して居られるがこゝには其の第三編大山の植物を照會する。第一章大山の植物相、第二章大山に顯著なる植物大群落、第三章大山植物帶中分布上貴重植物、第四章大山植物目録である。文中著者苦心の立派な寫眞がアート紙に印刷され植物の寫眞が約三十葉入つてゐる。(北村四郎)

大井次三郎氏：—臺灣のスゲ (J. OHWI : — Carices formosanae ; in Japanese Journal of Botany Vol. VII Nos. 1-2 Tokyo 1934).

臺灣産スゲ屬の總目録で六十種が擧げられてある。このスゲの分布から論んずれば臺灣の山地の一般フロラは支那やヒリツピンよりも内地のフロラに似てゐるといふ早田文藏博士の説を裏書きする事になるさうである。目下二十三種が固有種として知られてゐる。標品は主として京大植物標品室に保存されてゐるもので著者自身並びに故フオリー師、故長澤氏、島田氏の採集品である。本文中 *Carex apodostachya* OHWI, *C. brachyathera* OHWI, *C. Hatusimana* OHWI, *C. urelytra* OHWI は新種である。

(北村四郎)

館脇操氏：—北千島の植物 (Misao TATEWAKI : — Vascular Plants of the Northern Kuriles ; in Bulletin of the Biogeographical Society of Japan